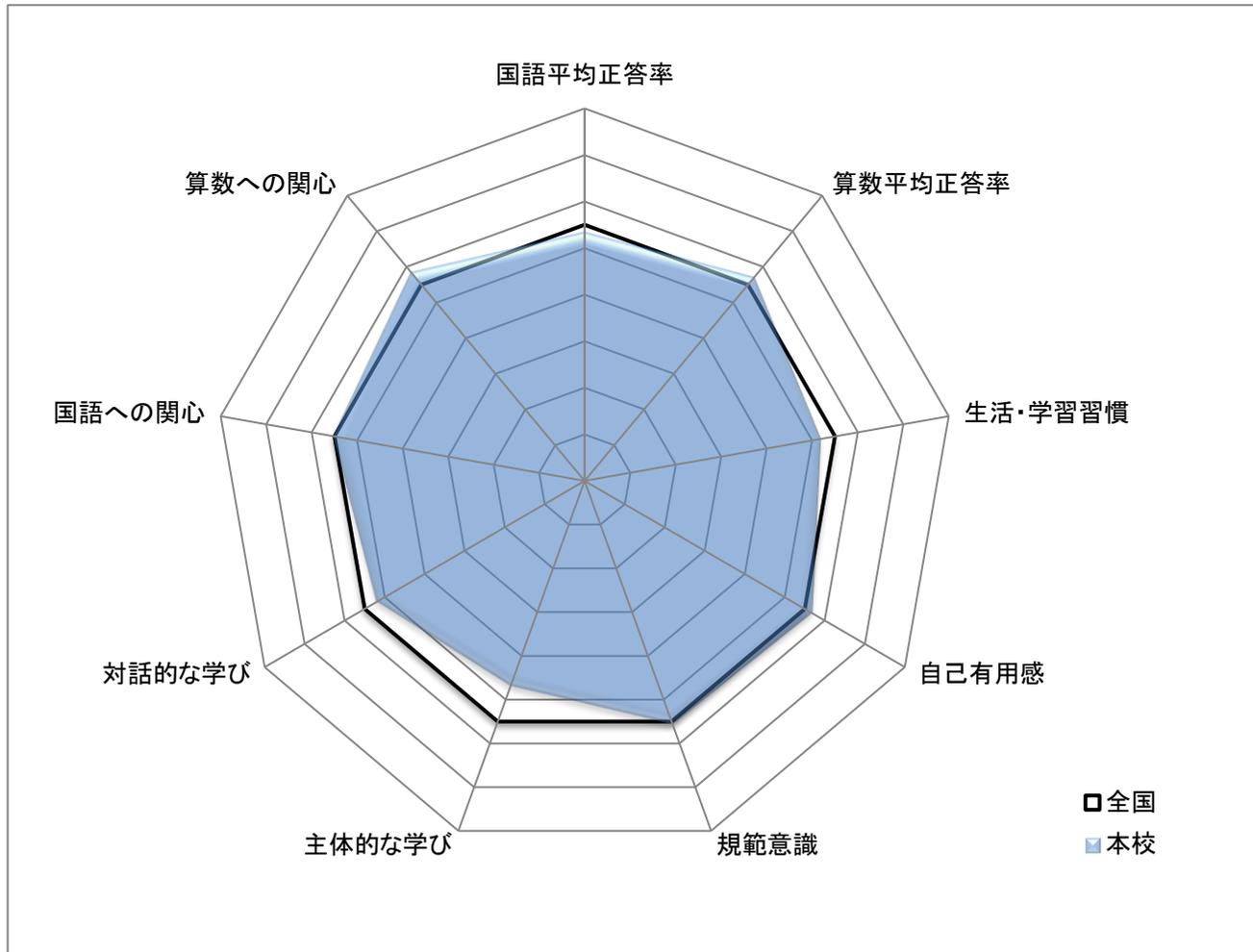


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

算数への関心が高く、平均正答率も高いので相関関係が見て取れる。国語への関心は全国と比較して同等であるが、平均正答率は全国よりも下回ってしまっている。  
また、主体的な学びと対話的な学びの項目は、全国と比べて下回っており、取り組めていないと感じる児童が多い一方で、自己有用感については全国を上回る結果が出ている。

《授業改善のポイント》

児童が主体的な学びができるようにするためには、学びに向かう力を刺激する様々な工夫をする必要がある。例えば、以下のような内容を意図的に設定していく。

- ・児童の興味、関心を踏まえた導入の工夫
- ・切実感のある課題設定
- ・試行錯誤できる学習環境
- ・多様な学び方の提供

また、対話的な学びを実現するためには、

- ・対話の必然性のある課題設定
- ・学習内容に応じたグループ構成や人数の工夫
- ・情報の可視化、操作化をするための思考ツールの活用等

《チャートの特徴》

全国と比較すると、以下のような結果が出ている。  
上回っているのは「算数の関心」、「算数平均正答率」、「自己有用感」の項目である。  
ほぼ同じなのが、「規範意識」、「国語への関心」の項目。  
逆に下回っているのは、「国語平均正答率」、「生活・学習習慣」、「主体的な学び」、「対話的な学び」の項目である。

《家庭・地域への働きかけ》

生活・学習習慣の項目が全国を下回っているので、家庭の協力が不可欠である。「江戸川っ子 study week」を実施するなどし、家庭と学校で連携を図っていく。また、「こいわっこタブレットルール」の徹底を促し、タブレットの使用が生活に悪影響を与えないようにさせる。